



# 平成23年4月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成23年3月8日

上場会社名 株式会社 ロック・フィールド  
 コード番号 2910 URL <http://www.rockfield.co.jp>

上場取引所 東大

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 岩田 弘三

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経理部部长 (氏名) 伊澤 修

TEL 078-435-2800

四半期報告書提出予定日 平成23年3月17日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成23年4月期第3四半期の業績(平成22年5月1日～平成23年1月31日)

### (1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年4月期第3四半期	35,426	—	1,817	—	1,845	—	1,000	—
22年4月期第3四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年4月期第3四半期	75.33	—
22年4月期第3四半期	—	—

(注) 当社は平成22年4月期まで連結財務諸表を作成していたため、平成22年4月期第3四半期の経営成績については記載しておりません。

### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年4月期第3四半期	27,076	21,575	79.7	1,624.50
22年4月期	27,336	21,116	77.2	1,589.94

(参考) 自己資本 23年4月期第3四半期 21,575百万円 22年4月期 21,116百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年4月期	—	12.00	—	22.00	34.00
23年4月期	—	18.00	—		
23年4月期 (予想)				22.00	40.00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無 無

## 3. 平成23年4月期の業績予想(平成22年5月1日～平成23年4月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	47,259	3.2	2,300	14.0	2,291	12.3	1,181	25.0	88.98

(注) 当四半期における業績予想の修正有無 無

4. その他（詳細は、【添付資料】4ページ「その他の情報」をご覧ください。）

(1) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 無

(注)簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

- ① 会計基準等の改正に伴う変更 有
- ② ①以外の変更 無

(注)「四半期財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	23年4月期3Q	13,394,374株	22年4月期	13,394,374株
② 期末自己株式数	23年4月期3Q	113,303株	22年4月期	113,317株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	23年4月期3Q	13,281,100株	22年4月期3Q	13,281,277株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、平成23年3月7日付にて、四半期財務諸表に対する四半期レビュー手続は終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)4ページ「(3)業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

また、子会社である株式会社コウベデリカテッセンは重要性が乏しくなったと判断し、第1四半期累計期間より連結の範囲から除外しました。これにより、当社は連結財務諸表非作成会社となったため、第1四半期累計期間より四半期財務諸表を作成しております。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期の業績等に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する定性的情報	2
(2) 財政状態に関する定性的情報	3
(3) 業績予想に関する定性的情報	4
2. その他の情報	4
(1) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	4
(2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	4
3. 四半期財務諸表	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	7
(第3四半期累計期間)	7
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 継続企業の前提に関する注記	9
(5) セグメント情報	9
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	9
4. (参考) 前連結会計年度に係る連結財務諸表	10
(1) 連結貸借対照表	10
(2) 四半期連結損益計算書	12
(四半期連結累計期間)	12
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	13

## 1. 当四半期の業績等に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する定性的情報

当第3四半期累計期間（平成22年5月1日～平成23年1月31日）における日本経済は、エコポイント継続等の経済政策の効果により一部に景気回復の兆しが見られたものの、分野別にエコポイント期間が終了するにつれ、個人消費の鈍化傾向が見られました。一時的に12月は消費が回復したものの、年明け以降は大寒波による影響が百貨店や大型商業施設等、小売業全体に大きな影響を与えました。

食品業界におきましても雇用環境の厳しさ等から消費者の節約志向が続く一方、原材料が高騰する等、厳しい経営環境にあります。

このような環境下におきまして、当社は全社を挙げた業務改革、カイゼンの取り組みを継続して行い、生産性向上と経費コントロールにより収益体質の強化を図ってまいりました。また、今期の事業計画の3本柱である「サラダカンパニー事業戦略」「食育の実践と提案」「お客様満足100%の推進」の実現に向け、継続して取り組んでおります。

「サラダカンパニー事業戦略」として、当社が一番の強みであるサラダの可能性に挑戦し進化を図っております。和そうざいの「いとはん」ブランドにおいても、「日本のさらだ」と称して和さらだ商品の強化に取り組ましました。

また「食育の実践と提案」として、引き続き「RF1」の店頭において「SHOKU-IKU新聞」を配布し、当社の考える食育の情報発信を行ってまいりました。また、クリスマス等の歳時記を中心に『二人のためのピンチョスセット』や『パテ・ド・カンパーニュ(ココット入り)』等、オードブルとお皿のセット商品を販売し、お皿に盛りつけて食卓を豊かに楽しむという食育提案を行ってまいりました。

さらに「お客様満足100%の推進」として、美味しさはもとより品質管理や衛生管理の徹底に努め、食の安心・安全への取り組みを強化してまいりました。

この結果、当第3四半期累計期間における業績は、売上高は35,426百万円、営業利益は1,817百万円、経常利益は1,845百万円、四半期純利益は1,000百万円となりました。

主なブランド別の概況は次のとおりであります。

「RF1」ブランドにおきましては、クリスマス向けの『贅沢たっぷり海の幸のスペシャルサラダ』や『フルーツトマトとモッツァレラチーズのジェノバ風サラダ』等の高付加価値商品を例年より早い時期から店頭展開し、高品質なものを求めるお客様のニーズにお応えしました。またピンチョスセットや『アンティパストセット』等、例年よりボリュームを抑えた1～2人前用のオードブルセットが好調に推移しました。さらにキッシュはサラダとの買い合わせを強化することで客単価向上に貢献いたしました。その結果、売上高は27,391百万円となりました。

「神戸コロッケ」ブランドにおきましては、引き続き日本各地の食材を使用した『ニッポンをほおぼる！ご当地コロッケ』の展開や、改良を加えた『じゃがいもコロッケ』等、定番コロッケの拡販に努めました。また昨年9月にリニューアルオープンした元町店においては、丹波の黒豆等、厳選素材を使用した新しい商品を全店に先駆けて導入・検証し、情報発信基地としての機能を果たしてきております。その結果、売上高は2,972百万円となりました。

「ベジタリア」ブランドにおきましては、『雪にんじん&りんご』等の季節の野菜を使った新メニューや持ち帰り専用キットタイプジュースの展開に加え、通常商品よりも野菜量を充実させた『濃厚！健康バランス30品目』等、野菜系ジュースの強化に努めました。また発売3年目となるスープにおいてもお客様が定着してきており、定番商品のポタージュや具だくさんスープに加え、『かぼちゃと栗』等デザートスープやリゾット等も新たな商品ラインナップに加えました。その結果、売上高は1,434百万円となりました。

ブランド別の売上は以下の通りであります。

業態		平成23年4月期 第3四半期	
		売上	構成比
RF1		百万円	%
	サラダ	15,392	43.4
	フライ	5,013	14.2
	その他そうざい	6,985	19.7
	小計	27,391	77.3
神戸コロッケ		2,972	8.4
いとはん・三日坊主		2,064	5.8
RF1 Asia・融合		671	1.9
ベジテリア		1,434	4.1
その他		891	2.5
合計		35,426	100.0

(注) 当社は、前年同四半期は四半期財務諸表を作成していないため、前年同四半期との経営成績の比較は行っておりません。

## (2) 財政状態に関する定性的情報

### ① 資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期会計期間末の資産合計は、主に現金及び預金の減少等による流動資産の減少388百万円、有形固定資産の増加94百万円、投資その他の資産の減少102百万円等により27,076百万円となりました。

一方、負債合計は、主に賞与引当金の減少等による流動負債の減少736百万円等により5,501百万円となりました。

純資産合計は、主に四半期純利益1,000百万円、配当金の支払による利益剰余金の減少482百万円等により21,575百万円となりました。

以上の結果、自己資本比率は79.7%、1株当たり純資産は1,624円50銭となりました。

### ② キャッシュ・フローの状況

当第3四半期累計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、期首に比べて515百万円減少し、6,339百万円となりました。

当第3四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

#### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得た資金は、1,199百万円となりました。これは主に税引前四半期純利益1,738百万円、減価償却費1,097百万円等の資金増加要因に、法人税等の支払額754百万円、売上債権の増加額510百万円等の資金減少要因が加わったことによるものであります。

#### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、784百万円となりました。これは主に定期預金の払戻による収入200百万円、差入保証金の回収による収入92百万円等の資金増加要因に対し、有形固定資産の取得による支出651百万円、無形固定資産の取得による支出198百万円等の資金減少要因があったことによるものであります。

#### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、930百万円となりました。これは主に長期借入金の返済による支出309百万円、配当金の支払額482百万円等によるものであります。

(注) 当社は、前年同四半期は四半期財務諸表を作成していないため、前年同四半期との①資産、負債及び純資産、②キャッシュ・フローの比較は行っておりません。

(3) 業績予想に関する定性的情報

平成22年6月8日に公表いたしました平成23年4月期の通期業績予想に変更はございません。

景気の変化や業界を取り巻く環境は変化を続けており、引き続き厳しい経営環境は継続しております。当社におきましては、業務改革、カイゼンの取り組みによる生産性向上・業務効率化による経費コントロールに取り組み、利益確保に努めてまいります。

今後、業績修正が必要となった場合には速やかに開示させていただきます。

2. その他の情報

(1) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

該当事項はありません。

(2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

(資産除去債務に関する会計基準の適用)

第1四半期会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用しております。

これにより、当第3四半期累計期間の営業利益、経常利益がそれぞれ6百万円減少し、税引前四半期純利益が70百万円減少しております。

3. 四半期財務諸表  
(1) 四半期貸借対照表

(単位：百万円)

当第3四半期会計期間末  
(平成23年1月31日)

資産の部	
流動資産	
現金及び預金	6,569
売掛金	3,983
製品	50
仕掛品	62
原材料及び貯蔵品	149
その他	350
貸倒引当金	△1
流動資産合計	11,166
固定資産	
有形固定資産	
建物（純額）	7,856
土地	3,003
その他（純額）	2,251
有形固定資産合計	13,110
無形固定資産	346
投資その他の資産	
その他	2,461
貸倒引当金	△8
投資その他の資産合計	2,452
固定資産合計	15,910
資産合計	27,076
負債の部	
流動負債	
買掛金	1,011
1年内返済予定の長期借入金	352
未払法人税等	289
賞与引当金	246
その他	2,480
流動負債合計	4,380
固定負債	
長期借入金	535
その他	585
固定負債合計	1,120
負債合計	5,501

(単位：百万円)

当第3四半期会計期間末  
(平成23年1月31日)

純資産の部	
株主資本	
資本金	5,544
資本剰余金	5,861
利益剰余金	10,358
自己株式	△208
株主資本合計	21,555
評価・換算差額等	
その他有価証券評価差額金	19
評価・換算差額等合計	19
純資産合計	21,575
負債純資産合計	27,076



(2) 四半期損益計算書  
(第3四半期累計期間)

(単位：百万円)

	当第3四半期累計期間 (自 平成22年5月1日 至 平成23年1月31日)
売上高	35,426
売上原価	15,127
売上総利益	20,298
販売費及び一般管理費	18,480
営業利益	1,817
営業外収益	
受取利息	4
受取配当金	4
保険配当金	14
その他	17
営業外収益合計	40
営業外費用	
支払利息	10
その他	2
営業外費用合計	12
経常利益	1,845
特別損失	
固定資産除却損	42
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	64
特別損失合計	107
税引前四半期純利益	1,738
法人税等	737
四半期純利益	1,000

## (3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	当第3四半期累計期間 (自 平成22年5月1日 至 平成23年1月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税引前四半期純利益	1,738
減価償却費	1,097
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△436
受取利息及び受取配当金	△8
支払利息	10
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	64
固定資産除却損	42
売上債権の増減額 (△は増加)	△510
たな卸資産の増減額 (△は増加)	63
仕入債務の増減額 (△は減少)	△153
その他	46
小計	1,954
利息及び配当金の受取額	9
利息の支払額	△9
法人税等の支払額	△754
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,199
投資活動によるキャッシュ・フロー	
定期預金の預入による支出	△20
定期預金の払戻による収入	200
有形固定資産の取得による支出	△651
無形固定資産の取得による支出	△198
長期前払費用の取得による支出	△184
差入保証金の差入による支出	△22
差入保証金の回収による収入	92
その他	△0
投資活動によるキャッシュ・フロー	△784
財務活動によるキャッシュ・フロー	
長期借入金の返済による支出	△309
リース債務の返済による支出	△139
自己株式の取得による支出	△0
自己株式の売却による収入	0
配当金の支払額	△482
財務活動によるキャッシュ・フロー	△930
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△515
現金及び現金同等物の期首残高	6,854
現金及び現金同等物の四半期末残高	6,339

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

当社は、そうざい事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(追加情報)

第1四半期会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号 平成21年3月27日)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日)を適用しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

4. (参考) 前連結会計年度に係る連結財務諸表  
 (1) 連結貸借対照表

(単位：百万円)

前連結会計年度末に係る  
 要約連結貸借対照表  
 (平成22年4月30日)

資産の部	
流動資産	
現金及び預金	7,175
売掛金	3,474
製品	64
仕掛品	67
原材料及び貯蔵品	194
その他	691
貸倒引当金	△1
流動資産合計	11,666
固定資産	
有形固定資産	
建物及び構築物(純額)	8,523
土地	3,003
その他(純額)	1,489
有形固定資産合計	13,016
無形固定資産	211
投資その他の資産	
その他	2,383
貸倒引当金	△8
投資その他の資産合計	2,375
固定資産合計	15,602
資産合計	27,269
負債の部	
流動負債	
買掛金	1,164
1年内返済予定の長期借入金	402
未払法人税等	532
賞与引当金	682
その他	2,335
流動負債合計	5,118
固定負債	
長期借入金	794
その他	309
固定負債合計	1,103
負債合計	6,222

(単位：百万円)

前連結会計年度末に係る  
要約連結貸借対照表  
(平成22年4月30日)

純資産の部	
株主資本	
資本金	5,544
資本剰余金	5,861
利益剰余金	9,820
自己株式	△209
株主資本合計	21,016
評価・換算差額等	
その他有価証券評価差額金	29
評価・換算差額等合計	29
純資産合計	21,046
負債純資産合計	27,269

(2) 四半期連結損益計算書  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成21年5月1日 至 平成22年1月31日)
売上高	34,641
売上原価	14,927
売上総利益	19,713
販売費及び一般管理費	18,099
営業利益	1,613
営業外収益	
受取利息	4
受取配当金	3
保険配当金	9
その他	19
営業外収益合計	37
営業外費用	
支払利息	15
その他	0
営業外費用合計	16
経常利益	1,634
特別利益	
過年度損益修正益	1
特別利益合計	1
特別損失	
固定資産除却損	82
店舗閉鎖損失	32
投資有価証券評価損	90
出資金評価損	93
特別損失合計	298
税金等調整前四半期純利益	1,337
法人税等	593
四半期純利益	743

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

前第3四半期連結累計期間  
 (自 平成21年5月1日  
 至 平成22年1月31日)

営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純利益	1,337
減価償却費	1,062
賞与引当金の増減額(△は減少)	△203
受取利息及び受取配当金	△8
支払利息	15
固定資産除却損	82
店舗閉鎖損失	32
投資有価証券評価損益(△は益)	90
出資金評価損	93
売上債権の増減額(△は増加)	△651
たな卸資産の増減額(△は増加)	29
仕入債務の増減額(△は減少)	△125
未払費用の増減額(△は減少)	512
その他	191
小計	2,458
利息及び配当金の受取額	9
利息の支払額	△15
法人税等の支払額	△724
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,728
投資活動によるキャッシュ・フロー	
定期預金の預入による支出	△120
定期預金の払戻による収入	100
有形固定資産の取得による支出	△476
有形固定資産の売却による収入	1
無形固定資産の取得による支出	△54
投資有価証券の取得による支出	△6
長期前払費用の取得による支出	△57
差入保証金の回収による収入	59
差入保証金の差入による支出	△140
その他	0
投資活動によるキャッシュ・フロー	△694
財務活動によるキャッシュ・フロー	
長期借入金の返済による支出	△536
リース債務の返済による支出	△56
自己株式の取得による支出	△0
自己株式の売却による収入	0
配当金の支払額	△451
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,044
現金及び現金同等物に係る換算差額	—
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△10
現金及び現金同等物の期首残高	6,156
現金及び現金同等物の四半期末残高	6,145